

科目名	情報処理			担当教員	野中清孝		
学年	電子 1 年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	専門	授業形式	講義, 演習	科目番号	08E01_30160	単位区別	履修単位
学習目標	コンピュータ教育の導入授業として位置づけ、情報処理センターの機器を利用して、コンピュータリテラシー教育を行なう。主な内容としては、基本ソフト(OS)の操作、タイピング演習、ワープロ演習、表計算ソフト演習を行なう。また、情報処理の基礎となるコンピュータの構造と機能、ソフトウェアの構造と役割等についての基礎的事項を実習を通じて学習する。さらに、簡単なプログラムを数多く作成することにより、ソフトウェアの作成の基本的事項及びプログラミングの基礎を習得することを目標とする。						
進め方	情報処理センターのパソコンを利用して、演習形式で授業を進める。各学習目標に対して、目標と課題が与えられる。また、タイピング演習、ワープロ演習では評価のために検定テストを行う。プログラミング演習では約 15 題の課題に取り組む。なお、不特定多数の人が使う情報処理センターを利用するので、利用規則を遵守すること。また、パスワードの管理、ソフトウェアの著作権、情報発信の責任について留意すること。						
履修要件	特になし						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1.授業の進め方と講義内容の紹介(2) 2.～ 3. パソコンの基本操作(4) ・ Windows NT の概要と特徴 ・ 基本操作とファイル操作 ・ 標準アプリケーションの利用 （メモ帳、ペイントブラシ等） 4.～ 8. タイピング演習(10) ・ 市販のタイピング用ソフトを利用してタイピング演習を行なう。 9. タイピング検定テスト(2) 10.～ 16. ワープロ演習(14) ・ Word(MicroSoft)を使用して演習を行なう。 ・ 文書の作成、編集、印刷等の基本操作 ・ 演習および課題文書の作成 ・ 自由課題の作成 ・ レポートの作成 17.ワープロ検定テスト(2) 18.～ 22. 表計算ソフトエクセル演習(10) 23. パワーポイントの演習(2) 24～ 26. プログラミング言語 BASIC 解説(6) ・ 基本事項(変数、命令) ・ 入出力、代入文 ・ 繰り返し文、条件文の学習 27～ 30. BASIC によるプログラミング(8) ・ Visual Basic を用いて簡単なプログラムを約 15 題作成する。 ----- 31.学年末試験(2) ----- 32.試験問題の解答と授業評価アンケート(1)			パソコン用の OS である Windows NT の基本操作を習得する。 D2:1 タイピング演習にて 1 分間に 180 字（アルファベット）程度の入力ができる。 C3:1 ワープロを利用して、レポートなど様々な文書をきれいに作成できる。 C3:1, C3:2 表計算ソフト(EXCEL)を利用できる。C2:1, C2:2 発表資料を作成できる。 C3:2 プログラムについての基本知識を理解する。 D2:1 本的なプログラムをプログラミング言語 Visual Basic で作成できる。 D2:1, D2:1			
評価方法	学習到達目標で示した項目に対しレポート提出、検定テスト等を行い、それぞれの習熟度を評価する。また、プログラミングについては試験を行う。これらの結果と授業態度を加えて総合的に評価する。タイピング(20%),ワープロ(20%),エクセル(20%),プログラム(20%),学習態度(20%)						
関連科目	情報処理						
教材	教科書：Windows による情報処理入門 高橋敏夫監修 実教出版 プリント資料配布						
備考	特になし						